

放課後等デイサービス自己評価表(公表)

事業所名	放課後等デイサービス アイナっ子
------	------------------

(令和 4 年 3月実施)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		学習スペースと運動スペースを分けて、活動している。	
	②	職員の配置数は適切であるか	○		決められた人員基準に則って運営している。	
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○		事業所入口(階段なし・ゆるやかな傾斜)や室内バリアフリーで段差なし。	
業務改善	④	業務改善を進めるための、PDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		個々の特性や得意分野を生かしながら療育の共通理解を適時図っている。	
	⑤	保護者等向け評価票を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		毎年保護者向けアンケートを実施し、回答内容を踏まえ職員で話し合い改善できる点は改善している。	
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		ホームページの他にも各家庭に紙媒体でも配付している。	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		専門家(経営コンサルタント)を通じて、最新情勢を含めて月1回会合を開いている。	
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		個々の障害の特性について共通理解を図り、療育に生かすようにしている。	
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		保護者のニーズに対して、個々の中間評価を作成しより高い目標や支援方法に結び付ける。	
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		保護者の意向や要望に漏れが生じないように、標準化されたものを使用している。	
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		その日に利用する児童の現状を職員皆で把握して方向性を確認している。	
	⑫	活動プログラムを固定化しないよう工夫しているか	○		固定化せず常時、子どもたちが意欲的に取組めるようにし、業務終了後には改善すべき点を話あっている。	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○		休日、長期休業中は、所外活動を多く取り入れ、子どもたちの可能性を伸ばさせている。	新型コロナウイルス感染予防のため建物内やイベント等の三密になる場所への出入りは自粛した。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		個別指導だけでなく、集団活動を含めて複合的に療育を組み合わせ「楽しい」「できた」が実感できるよう工夫している。	
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		子どもたち個々の特性や性格を確認し合い、怪我や事故の未然防止を含めて確認している。	
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	○		職員間で意見を出し合い、情報の共有を図っている。	
	⑰	日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		業務日誌を毎日記載して、現状把握とより効果的な療育の改善に努めている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○		より保護者様のニーズや期待に応えられるように、面談を含めた相談見直しを実施している。	
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか	○		全てに実施している。	学校現場との連携をより充実させながら、家庭・学校・放デイ・関係機関と密接な関係づくりを構築する。学校に放デイをしっかりと認知してもらうことも必要である。
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		要請があればいつでも参加して、連携をしながら進めたい。	
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○		送迎の遅れなどは、事前に学校に連絡を入れて迅速に対応している。必要に応じて、学校担当職員との話し合いを常時行っている。	
	㉒	医療ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○	今のところ該当者がいない。	
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○		事前にいただいた資料や情報を職員間で共有している。	
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		○	今のところ該当者がいない。	
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		積極的な活用を進めている。	
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会はあるか	○		室内での活動は自粛しているが、所外活動では交流の機会がある。	
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか		○	今のところ該当者がいない。	
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		利用時の子どもの変容を常時知らせて共通理解を図り、信頼関係を構築している。	
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○		保護者から相談があった際には支援を行っている。	
保護者への説明責任等	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時の説明やホームページで知らせている。	
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		保護者の悩みや学校でのトラブルに対して、助言や支援を行っている。	
	㉒	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○	保護者からのアンケート結果から現時点で、必要性を感じていない。	
	㉓	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		質問や要望に対しては、まずは職員間で話し合い、必要であれば保護者を交えての話し合いの場を設けるなどの対応をしている。	
	㉔	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		保護者との連絡ツールの一つとして今年度から連絡アプリを取入れ活用している。	
	㉕	個人情報に十分注意しているか	○		徹底した管理のもとで、全職員注意している。持出も禁止している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	③6	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		お子さまに対しての情報を共有し進めている。情報伝達の際もわかりやすく伝わるよう心掛けている。	
	③7	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		現時点で、通っている子どもたち、招待する方たちの安全面の保障を確保するための人員確保が困難である。また、まだコロナ禍であるため検討していない。
非常時の対応	③8	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		災害・虐待防止マニュアルは現存しているが、現在見直しをして作成し直している。	現在、様々な災害が多く発生しているのでマニュアルを見直し、作成し直している。マニュアルが新しく完成したら保護者に周知していきたい。
	③9	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他に必要な訓練を行っているか	○		年に数回程度、火災・地震の避難訓練を実施している。	
	④0	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		如何なる場合にも、身体的・心理的虐待は許容されない事を認識し徹底している。また外部から講師を招いて研修を行った。	今年度も研修を予定している。
	④1	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得たうえで、放課後等サービス計画に記載しているか	○		情動コントロールができず、他者に危害を及ぼす場合には、事前に保護者に確認や了解を得て対処している。	
	④2	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		契約時に、食物アレルギー調査を徹底して万全を図っている。	
	④3	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		リスクマネジメントの徹底を図り、事故の回避に繋げている。また判例(DVD)を視聴して、どんな事故や怪我が多いのかを把握して対処している。	